

学校だより

一年間の締めくくりの月 3月



間もなく、締めくくりの月3月です。春を目前に、子どもたちの頼もしい活躍が様々な場面で見られます。

子どもたちの健康管理に十分に気をつけ、子どもたちの実力を様々な活躍場面で存分に発揮させていきたいと考えています。学校と家庭で手を取り合って、子どもたちの成長のために努力をしていきたいと思ひます。ご理解とご協力をよろしくお願ひいたします。

いよいよ1年の締めくくりの時期を迎えました。3月18日には、92名の6年生に卒業証書が手渡されます。そして、3月23日の修了式をもって、1年間の教育活動を終えることとなります。本年度の教育活動にあたり、保護者の皆様、地域の皆様には、温かいご支援ご協力をいただきましたことに心より感謝申し上げます。

今年の卒業生は、6年前に新型コロナの影響で4月に入学式できなかった児童たちです。パンデミックを乗り越え、これまでの日常が少しずつ戻ってきての卒業式です。あたりまえの入学式ができなかった分、2倍、3倍の思い出深い卒業式にしたいものです。

卒業生92名やこれからの時代を生き抜く子どもたちに向けて次の詩を紹介しします。これは、1970年代に生まれてくる子どもを見ることなく32歳で命を失った医師井村和清さんの詩です。

あたりまえ 井村 和清

あたりまえ、こんなすばらしいことを みんなはなぜよろこばないのでしょう
 あたりまえであることを お父さんがいる お母さんがいる
 手が二本あって 足が二本ある 行きたいところへ自分で歩いていける
 手をのばせばなんでもとれる 音がきこえて声がでる
 こんなしあわせなことがあるでしょうか
 しかし、だれもそれをよろこばない あたりまえだ と笑ってすます
 食事がたべられる 夜になるとちゃんと眠れ そして又朝がくる
 空気を胸いっぱいにする 笑える、泣ける、叫ぶこともできる
 走りまわれる
 みんなあたりまえのこと こんなすばらしいことを
 みんなはよろこばない
 そのありがたさを知っているのは それを失くした人たちだけ
 なぜでしょう あたりまえ

日常生活で「あたりまえ」と感じとっていることがたくさんあります。この世に生を受けた自分自身のこと、太陽の光・水・空気といった自然の恵み、豊富な食品や物を構成する物質、それに友だちや家族等。いつも同じことの繰り返しに感じ、明日も明後日もそれが続くかのように思っていますが、いつかそうでなくなることが必ずあります。そうです6年前の入学式。だからこそ、人と出会うことは、「またとあり得ない会い方法で会っている」と言えるでしょう。「あり難(がた)い」「ありがとう」につながるのではないのでしょうか。3月から4月にかけては別れと出会いの季節です。出会いのありがたさをかみしめるとともに、改めて「あたりまえ」のことが本当にあたりまえのことなのかを考え、「あたりまえ」のことに感謝の目を向けてみることも意義のあることだと思ひます

校長 吉川 秀樹

来年度のお知らせ(予定)

※変更になることがあります。

- 1学期始業式 4/8(水) 終業式 7/16(木)
- 2学期始業式 8/26(水) 終業式 12/23(水)
- 3学期始業式 1/12(火) 修了式 3/23(火)
- 自然体験学習(5年) 6/24(水)～25(木)
- 修学旅行(6年) 10/8(木)～9(金)
- 運動会は、10/31(土)の予定です。(予備日 11/5(木))

